

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良く なっている やや良く なっている	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の発売効果がかかなりある。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・記念行事セールを実施したこともあり、10月は販売量が増えた。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ、来客数及び売上高共に上回った。紳士、婦人共に秋物ファッション商品、また宝飾や美術品等も好調であった。食品についても催事が好評で売上を伸ばした。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・10月は寒暖の差があり、寒い日には高額な冬物系の商品がよく売れたため、販売単価が上昇した。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・10月は例年に比べて気温が低かったため、秋物商品の需要が高まり、来客数増加に繋がった。買上客数は前年比5%以上増加し、売上も好調に推移している。また、東日本大震災以降低迷していた旅行用の服の購入も増えており、購買意欲に変化がみられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量は良いとまでは言えないものの、自動車生産はほぼ回復しており、10月の納車は順調であった。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型エコカーの発売もあり、販売台数は増加している。エコカー購入補助金終了の影響があった前年を大きく上回っている。
	変わらない	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・東日本大震災による旅行需要の落ち込みが回復してきており、販売高は前年水準に戻ってきた。また、円高の影響から、海外旅行需要も前年を上回っている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・気温の低下に伴い、秋物商品や冬物の先取り等、正規の季節商材がますます売れている。また、週末にはファミリー層の来街客も増加しており、底打ち感がある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・全般的に停滞気味である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・来街客数が、平日、週末共に伸び悩んでいる。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・店頭売りが少ない。また、取引先の飲食店の来客数が減少しているため、納品も少ない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・高騰していた野菜価格が安定してきたため、販売量は増加したが、単価は下落し、売上増加には繋がっていない。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・地場で当社最大の競合先が国内最大手企業に経営統合された。直後の混乱下で、当社は若干の好影響を受けているが、長続きはしないだろう。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・10月は地方祭などの催事があり、天気も良かったことから客数は確保できた。東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害による商品への敬遠は少なからずあり、品ぞろえに神経を使っている。
		スーパー（人事）	販売量の動き	・今のところは、ほぼ前年並みで推移しているが、気温の冷え込みが弱く、商品の動きは弱い。
		スーパー（財務担当）	販売量の動き	・売上の大きな変動はみられない。
	スーパー（企画・営業担当）	販売量の動き	・いずれの商材もほぼ見込み通りではあるが、セールや販売促進等への反応がより強まる傾向があり、通常時との差が大きくなってきている。	
	コンビニ（店長）	お客様の様子	・デザートなど高単価商品の売上が順調である。女性の来店が増加している。遠くまで買物に行けない年配客が、重いもの、大きくてかさばる商品を購入するケースが目立つ。	
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・3か月前と同様、来店客数は前年割れしている。	
	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・エコカー購入補助金制度終了の影響で受注が激減した前年と比較すると良い。それを除外すると、未だ東日本大震災や台風災害などの影響が続いている。	
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊客数は、ここ3か月続けて前年比で増加しているが、消費は控え目であり、客単価は上昇していない。	
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・販売単価の下落基調は変わらない。しかし、来客数は若干ながら増加してきている。	

	タクシー運転手	お客様の様子	・売上、客単価共に減少しており、3か月前と比べて変化はない。全国大会が地元で開催され、多くの人を訪れてもホテルに帰るのみで、人の動きが悪い。	
	通信会社（企画）	お客様の様子	・比較的高額な商品の引き合い件数について、これまでは堅調であったが、ここにきて徐々に減少してきている。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ゴルフシーズン到来で期待したが、来場者数は前年より減少した。客単価も下落しつつあり、景気の悪さが影響している。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客単価は前年をわずかに下回ったものの、来客数が増加したことから、かろうじて売上は増加した。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・内需は、高齢化による市場の縮小や、エコポイントなど景気刺激策の終了で拡大が望めない。生産拠点の海外移転による雇用の影響も心配である。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・飲食街などの開店が少なかった一方で、閉店する店舗がみられるなど、前向きな商品の動きが少なかった。	
	一般小売店〔菓子〕（総務担当）	お客様の様子	・12月の繁忙期前の消費控えがみられる。また、消費志向の多様化も影響している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客の反応が極端に悪く、新しい展開をしないと売上に大きく影響する状況である。また、食品の放射能汚染問題は終息しかけているはずであるが、依然として精肉関係が低迷しており、不安を感じる。	
	家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比で2割低下した。地上デジタル放送移行によるテレビ需要で活況だった3か月前に比べ、全般的に低くなっている。	
	家電量販店（店員）	単価の動き	・販売数の減少以上に、単価の下落が目立ってきている。従来はミドルクラス商品を購入する客層が、最低クラスの商品を選択している。	
	家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・10月では、テレビは買換えが済んでいなかった小型商品に限定され、9月以上に落ち込んだ。冷蔵庫は急激に落ち込んでいる。洗濯機は多少買換え需要があるものの、前年並みまでとはいかない。	
	その他飲食〔ファストフード〕（経営者）	来客数の動き	・全般に売上が低下している。特に焼肉業態は前年比80%となった。この状態が続くと閉店止む無しの店舗もある。不景気、食中毒、食品の放射能汚染問題の三重苦で回復の見込みがない。	
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・10月は、端末の新型モデルが発表された直後であることから、買い控えが生じている。	
		競艇場（職員）	販売量の動き	・10月の売上は、前月比で微減、3か月前比で4%増加した。前年比では287%増加したが、これは前年が施設改善工事で9日間の営業日数しかなかったことによる。1日当たりの売上では、前月比で4%減少、3か月前比で3%減少、前年比で24%増加し、全体的にはやや落ち込んでいる。
	設計事務所（職員）	販売量の動き	・公共事業量が年々減少しており、業界全体で受注量、販売量共に減少している。地方の土木設計業は極めて厳しい状態に置かれており、補正予算も期待できず経費節減に努めている。	
悪くなっている	一般小売店〔乾物〕（店員）	販売量の動き	・特に食料品など、東日本大震災による復興需要が落ちついてきており、売上は非常に落ち込んでいる。	
	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭、外商売上共に、前年を大きく割り込んでいる。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・秋の需要に向け、少し引き合いが増加してきている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・東日本大震災の影響による部品調達難から生産、販売が遅れていたが、7月以降の増産により取り戻しつつある。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・発注は順調に推移しており、特に不況感はない。商況が悪化している小売店もあるが、全体的には悪くない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が全然伸びない。
	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・老人ホームや保育園など福祉関連の工事の成約が相次ぎ、手持ち工事は確保できているものの、安値受注であり、収益面では相変わらず厳しい。	

	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事の受注量としては例年並みであるが、売上額はこれに伴っていない。	
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・大手家具販売店の新規オープン等があり、10月は比較的受注が多かった。しかし、地元の既存取引先は依然として販売促進費を削減し続けている。	
	公認会計士	取引先の様子	・10月の取引先の決算内容や試算表によると、業績が前年並み水準となる企業が増加傾向にあり、全体の70%を占めている。	
やや悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注先が円高の影響を受け、当社への受注量は減少傾向にある。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生可能エネルギー特別措置法案が可決されたものの、来年7月の施行に向けての具体的な方向性が明確になっていないことにより、産業用太陽光発電関連の受注が止まっている。	
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・世界経済の減速、特に欧州市場での販売の落ち込みの影響を受け、輸出関係の受注数量が減少している。	
	輸送業（営業）	取引先の様子	・業種を問わず、生き残りをかけ、物流や調達面の効率化を前提としたM&Aを図る取引先が複数ある。こうした企業再編により、既存顧客からの受注済みの契約を失注する事態も起きている。景気低迷に加え、東日本大震災による流通網の混乱が、業界再編に拍車をかけている。	
悪くなっている	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・荷主からは、コストダウン要請や他業者への取引移行打診を頻繁に受けている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・年度下期に入り雇用機会が高まっているのか、派遣社員の引き合いが増加している。ただし、2～3か月の短期雇用が目立つ。
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求人数の増加はみられるが、求職者とのミスマッチも多く、全体的には変化がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・カーディーラーの広告出稿は通常に戻ってきているものの、金融やサービス関連業などは上向きの気配がない。全体的には低調に推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療・福祉やサービス業においては新規求人数が増加している一方、これまで求人数が多かった製造、小売業において新規求人が減少しており、全体数では変化がない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・最近の大型店舗の進出による雇用特需はあるものの、長引く円高の影響が少しずつ出てきている。
	やや悪くなっている	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・ハローワーク求人一覧への掲載数が、ここ数年にないほど少ない。
		民間職業紹介機関（所長）	雇用形態の様子	・中途採用や派遣採用が減少しており、業界を取り巻く環境自体が厳しくなっている。
	悪くなっている	-	-	-